

Resolutions of determinantal ideals,
 t -minors of $(t+2) \times (t+2)$ -matrices

京大理 蔵野和彦 (Kazuhiko Kurano)

京大理 橋本光靖 (Mitsuyasu Hashimoto)

行列のある order の小行列式で生成されるイデアルを
determinantal ideal と呼び、それが定める多様体を determinantal
variety ということにする。

determinantal variety は古くから Hilbert, Macaulay, Giambelli
など多くの数学者の研究対象となってきた。そして約 30 年
前から次のような問題が研究され続けている。

問題. m, n, t を自然数とし ($1 \leq t \leq \min(m, n)$), $R = \mathbb{Z}[x_{ij}]_{\substack{1 \leq i \leq m, \\ 1 \leq j \leq n}}$
を有理整数環 \mathbb{Z} 上の多項式環、 I_t を行列 (x_{ij}) の t 次
小行列式全体で生成されるイデアルとする。このとき、
 R/I_t の minimal free resolution を見つけることができるか、

minimal free resolution とは R/I_t の R 上の自由分解で、それ
ぞれの boundary map の成分が定数項を持たないものである。

$t=1$ の場合は、古くからよく知られている Koszul complex がそうである。また $t=\min(m,n)$ のときは $[E-N]$ 、 $t+1=m=n$ のときは $[G-N]$ 、さらに $t+1=n \leq m$ の場合には $[A-B-W]_1$ でその問題の解答が与えられている。しかし一般の m, n, t に対しては知られていない。

この種の研究が進んでゆくうちに、この問題は一般線形群の多項式表現と重要な関係を持つことが次第にわかってきた。そのため標数 0 の体上での一般線形群の多項式表現に関する理論をある程度、一般の環上でも実現させようという試みがさかんに行なわれている（例えば $[A-B-W]_2$ ）。

最近、次のような結果が得られました。

Theorem. $m=n=t+2$ とする。このとき R/I_t の Betti number は標数によらない。つまり、この場合 R/I_t の minimal free resolution は存在する。

以下、この定理の証明の概略をのべる。

最後まで、 $m=n=t+2$ 、つまり $R = \mathbb{Z}[x_{ij}]_{1 \leq i, j \leq t+2}$ とし、各 x_{ij} の次数を 1 として R を次数環とすることにする。

§ 1. Betti numbers.

Definition 1. p を素数. π は 0 として, \mathbb{F}_p を標数 p の素体とする. このとき,

$$\beta_p(i, t) := \dim_{\mathbb{F}_p} \operatorname{Tor}_i^{R \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{F}_p} (R/I_t \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{F}_p, R/I_1 \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{F}_p)$$

と定め, これを i 番目の Betti number という。

$R \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{F}_p$ は体上の多項式環であるから, その次数加群 $R/I_t \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{F}_p$ は, (graded) minimal free resolution を持つ。 $\beta_p(i, t)$ は, その resolution の i 番目の free module の rank に他ならない。

Betti number と minimal free resolution の存在性は, 次の命題で関係づけられている。

Proposition 2 (P. Roberts, [R]). 次は同値。

- 1). R/I_t の R 上の minimal free resolution が存在する。
- 2). 任意の i に対して, $\operatorname{Tor}_i^R(R/I_t, R/I_1)$ は \mathbb{Z} -free。
- 3). 任意の i に対して, $\beta_p(i, t)$ は p によらない。

(この命題は, [R] では \mathbb{Z} と一般に, \mathbb{Z} 上の多項式環 S とその脊次イテアル J で, S/J が \mathbb{Z} -free になる場合に示す)

れている。[D-P]により、 \mathbb{Z} 上の generic matrix の determinantal ideal はこれを満たすことがわかる。)

上の命題より、 $R_{\mathbb{Z}_t}$ の minimal free resolution の存在を知るためには、 $\beta_p(i, t)$ が i と t だけによって定まり p によらないことを示せば十分なのである。

[H-E] により今の場合、 $R_{\mathbb{Z}_t} \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{F}_p$ の射影次元は 9 であり、さらに [S] により $R_{\mathbb{Z}_t} \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{F}_p$ は Gorenstein 環となることがわかっている。これらのことより任意の t に対して、

$$\beta_p(i, t) = 0 \quad \text{for } i < 0, i > 9$$

$$\beta_p(k, t) = \beta_p(9-k, t) \quad \text{for } k = 0, 1, \dots, 4$$

となることがわかる。だから、 $\beta_p(i, t)$ ($i=0, 1, \dots, 4$) の5つが p によらないことを示せばよいのである。

§2. $\beta_p(i, t)$ の計算 ($i=0, 1, 2, 3$)

(0) $\beta_p(0, t)$ は、 $R_{\mathbb{Z}_t} \otimes_{\mathbb{Z}} \mathbb{F}_p$ の minimal free resolution の最初の自由加群の階数である。このことより、 $\beta_p(0, t) = 1$ を得る。

(1) $\beta_p(1, t)$ は、 $R \otimes \mathbb{F}_p$ のイデアルの homogeneous minimal generator の数となる。 $(t+2)$ -正方行列には、 t 次小行列式は $\binom{t+2}{t}^2$ 個ある。それらは \mathbb{F}_p 上一次独立となる。故に、 $\beta_p(1, t) = \binom{t+2}{t}^2$ となり、これも p によらない。

(2) $\beta_p(2, t)$ は、 $\binom{t+2}{t}^2$ 個の小行列式の relation module の minimal generator の数である。これを計算するために、次の定理を使う。

Theorem 3, ([K]) 任意の係数環上、generic matrix の小行列式の relation module は、1 次の relation により生成される。

この定理により、 $R_{I_t} \otimes \mathbb{F}_p$ の $R \otimes \mathbb{F}_p$ 上の minimal free resolution のはじめの部分は次のような形をしている。

$$(R \otimes \mathbb{F}_p)_{(-t-1)} \xrightarrow{\beta_p(2, t)} (R \otimes \mathbb{F}_p)_{(-t)} \xrightarrow{\binom{t+2}{t}^2} R \otimes \mathbb{F}_p \rightarrow R_{I_t} \otimes \mathbb{F}_p \rightarrow 0.$$

この完全列の $t+1$ 次の部分は次のような形をしている。

$$0 \rightarrow (R \otimes \mathbb{F}_p)_0 \xrightarrow{\beta_p(2, t)} (R \otimes \mathbb{F}_p)_1 \xrightarrow{\binom{t+2}{t}^2} (R \otimes \mathbb{F}_p)_{t+1} \rightarrow (R_{I_t} \otimes \mathbb{F}_p)_{t+1} \rightarrow 0.$$

$(R \otimes \mathbb{F}_p)_0$ を除く上の3つのベクトル空間の次元は、 p によ

らない。([D-P] により, $(R/\mathfrak{q} \otimes \mathbb{F}_p)_{t+1}$ の次元は p によらないことがわかる。) このことから $\beta_p(2, t)$ が p によらないことがわかる。

(3) $\beta_p(3, t)$ は、小行列式の 1 次の relation からの relation module の minimal generator の数となる。これを調べるために次の定理を使う。

Theorem 4. minimal free resolution の次の部分, すなわち写像 $(R \otimes \mathbb{F}_p)_{-(t-1)} \xrightarrow{\beta_p(2, t)} (R \otimes \mathbb{F}_p)_{-t} \binom{t+2}{t}^2$ の Kernel は、1 次の relation により生成される。

証明: 省略

(上の定理はもっと一般に、generic $m \times (t+2)$ -行列の t 次小行列式により生成されるイデアルに対して示される。しかし一般のサイズの generic matrix の場合には、必ずしも成立しないことが橋本により証明されている。)

定理 4 を使えば、(2) と同様にして $\beta_p(3, t)$ が p によらないことが証明される。

(0), (1), ..., (3) により、 $\beta_p(i, t)$ は、 $i=0, 1, 2, 3$ の場合には p

によらないことが示された。

§ 3. Linear complexes.

$F(p, t)$ を $R/I_t \otimes \mathbb{F}_p$ の $R \otimes \mathbb{F}_p$ 上の minimal free resolution とする。

このとき Betti number の定義から $F(p, t)_i = (R \otimes \mathbb{F}_p)^{\beta_p(i, t)}$ となる。

$F(p, t)_i$ は graded free module であるから、次のような形をしている。

$$F(p, t)_i = \bigoplus_{\mathbb{R}} (R \otimes \mathbb{F}_p)(-\mathbb{R})^{\beta_p(i, t)_{\mathbb{R}}}$$

$$\left(\beta_p(i, t) = \sum_{\mathbb{R}} \beta_p(i, t)_{\mathbb{R}} \right)$$

このとき、 $\beta_p(i, t)_{\mathbb{R}}$ は、minimal free resolution のとり方によらずに定まる。だから、全ての i, t, \mathbb{R} に対して $\beta_p(i, t)_{\mathbb{R}}$ が p によらないことがいえるはよい。

Lemma 5

$$\beta_p(9, t)_{\mathbb{R}} = \begin{cases} 1 & \text{for } \mathbb{R} = 3t + 6 \\ 0 & \text{otherwise} \end{cases}$$

証明. \mathbb{Q} を有理数体とする。このとき、 $R/I_t \otimes \mathbb{Q}$ の graded minimal free resolution の 9 番目の自由加群は確かに $(R \otimes \mathbb{Q})(3t-6)$

となつてゐる ([LL]). この $3t+6$ は、 $R/I_t \otimes \mathbb{Q}$ の canonical module の生成元の次数を表わしてゐる。[D-P] より、 $R/I_t \otimes \mathbb{F}_p$ の Poincaré series は標数によらないことがわかる。そのことから canonical module の生成元の次数も標数によらないことがわかる。 Q. E. D.

Section 2 より、 $R/I_t \otimes \mathbb{F}_p$ の $R \otimes \mathbb{F}_p$ 上の minimal free resolution の最初の部分は次のような形をしてゐることがわかる。

$$(R \otimes \mathbb{F}_p)(-t-2) \xrightarrow{\beta_p(3,t)} (R \otimes \mathbb{F}_p)(-t-1) \xrightarrow{\beta_p(2,t)} (R \otimes \mathbb{F}_p)(-t) \xrightarrow{\beta_p(1,t)} (R \otimes \mathbb{F}_p) \xrightarrow{\beta_p(0,t)} 0$$

ここで、 $\beta_p(1,t) = \beta_p(1,t)_t$, $\beta_p(2,t) = \beta_p(2,t)_{t+1}$, $\beta_p(3,t) = \beta_p(3,t)_{t+2}$ が成立することに注意する。

$(R/I_t \otimes \mathbb{F}_p)$ は Gorenstein 環であるから、その graded minimal free resolution の dual をとつて次数をてきとうにずらせば、それは再び $R/I_t \otimes \mathbb{F}_p$ の graded minimal free resolution となることがわかる。そのことから、 $R/I_t \otimes \mathbb{F}_p$ の graded minimal free resolution は次のような形をしてゐることがわかるのである。

$$0 \rightarrow (R \otimes \mathbb{F}_p)(-3t-6) \xrightarrow{\beta_p(9,t)} (R \otimes \mathbb{F}_p)(-2t-6) \xrightarrow{\beta_p(8,t)} (R \otimes \mathbb{F}_p)(-2t-5) \xrightarrow{\beta_p(7,t)} (R \otimes \mathbb{F}_p)(-2t-4) \rightarrow \dots$$

ここで、 $\beta_p(9,t)_{3t+6} = \beta_p(9,t)$, $\beta_p(8,t)_{2t+6} = \beta_p(8,t)$, $\beta_p(7,t)_{2t+5} = \beta_p(7,t)$, $\beta_p(6,t)_{2t+4} = \beta_p(6,t)$ が成立する。

この minimal free resolution を $\Rightarrow R$ のようなグラフで表わす。

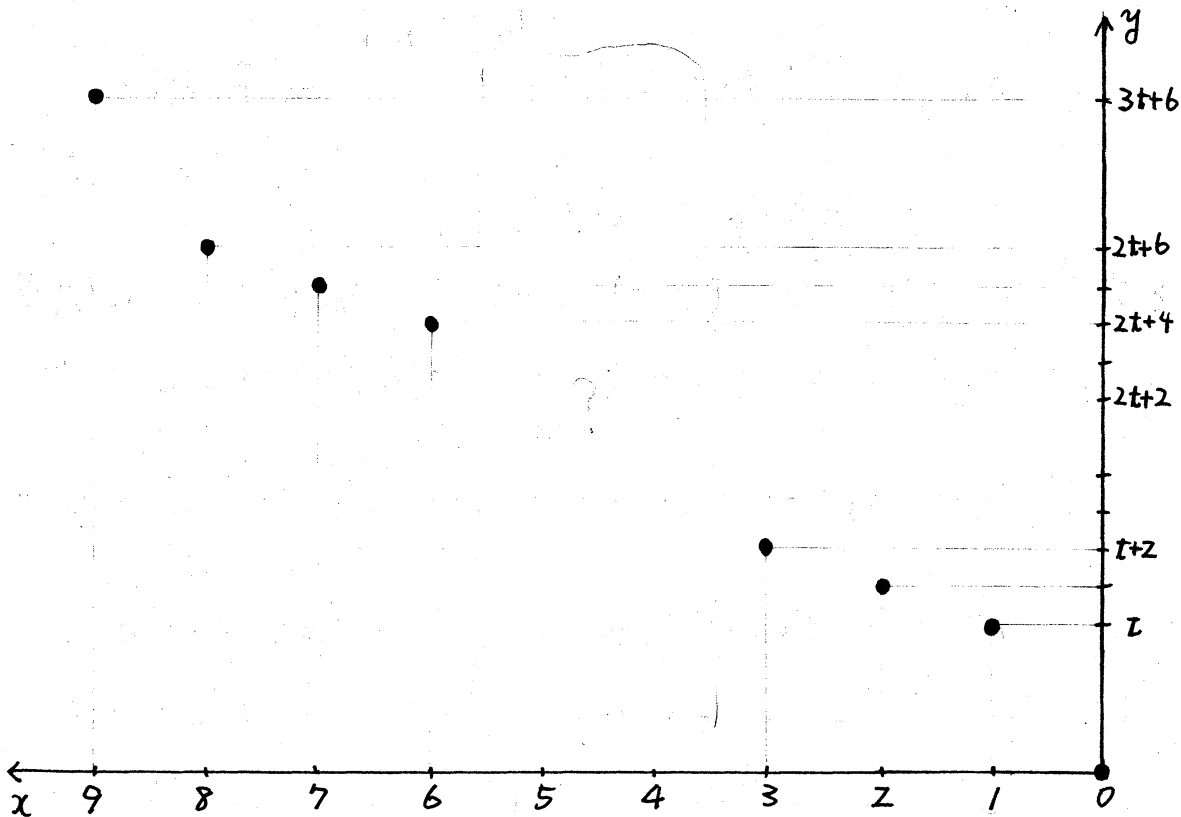


Diagram I

整数の組 (x, y) に対して、 $\beta_p(x, t)_y \neq 0$ であるときに、点 (x, y) に "•" を書いたのが、このグラフである。体上の多項式環の minimal free resolution の性質より、

$$\bullet \beta_p(4, t)_R = 0 \quad \text{for } R < t+3, R > 2t+2$$

$$\bullet \beta_p(5, t)_R = 0 \quad \text{for } R < t+4, R > 2t+3$$

となることがわかる。

Definition 6. $R/I_t \otimes F_p$ の $R \otimes F_p$ 上の minimal free resolution

$F(p, t)$. に対して.

$$X_i := (R \otimes \mathbb{F}_p)(-t-\lambda+1)^{\beta_p(i, t)_{t-\lambda+1}} \subseteq F(p, t)_i$$

$$X_0 := R \otimes \mathbb{F}_p = F(p, t)_0$$

$i = 1, 2, \dots, 5.$

と定める。このとき、 $F(p, t)$ の boundary map を X_i に制限すれば、その像は X_{i-1} に入ることがわかる。このことより、

$$0 \rightarrow X_5 \rightarrow X_4 \rightarrow X_3 \rightarrow X_2 \rightarrow X_1 \rightarrow X_0 \rightarrow 0$$

は、 $F(p, t)$ の sub complex となる。これを Linear complex ということにする。(Linear complex は、 $X_i \rightarrow X_{i-1}$ の Kernel の次数がいちばん小さい部分だけに注目して作った Complex である。簡単に、Linear complex は、minimal free resolution のとり方によらず、同型を除いて一意的となることがわかる。)

Lemma 7. $\beta_p(4, t)_{t+3}$, $\beta_p(5, t)_{2t+3}$ は p によらない。

証明. Diagram I より、Linear complex の $t+3$ 次の部分は次のようになっている。

$$0 \rightarrow (X_4)_{t+3} \rightarrow (X_3)_{t+3} \rightarrow (X_2)_{t+3} \rightarrow (X_1)_{t+3} \rightarrow (X_0)_{t+3} \rightarrow (R_{\mathbb{F}_p})_{t+3}^{-1} \rightarrow 0$$

$$\parallel$$

$$(R \otimes \mathbb{F}_p)_0^{\beta_p(4, t)_{t+3}}$$

これは、minimal free resolution の $t+3$ 次の部分でもあるから、完全列である。各ベクトル空間の次元を見てやれば、 $\beta_p(4, t)_{t+3}$ は p によらないことがわかる。 $F(p, t)$ の dual の次数を t 以上にずらせば再び minimal free resolution となる。このことから $\beta_p(4, t)_{t+3} = \beta_p(5, t)_{2t+3}$ がいえる。 Q. E. D.

Lemma 8 $\beta_p(4, t)_{2t+2}$, $\beta_p(5, t)_{t+4}$ は p によらない。

証明. 省略する。

Lemma 7, 8 より。Diagram I の $x=4, 5$ の部分はある程度わかる。

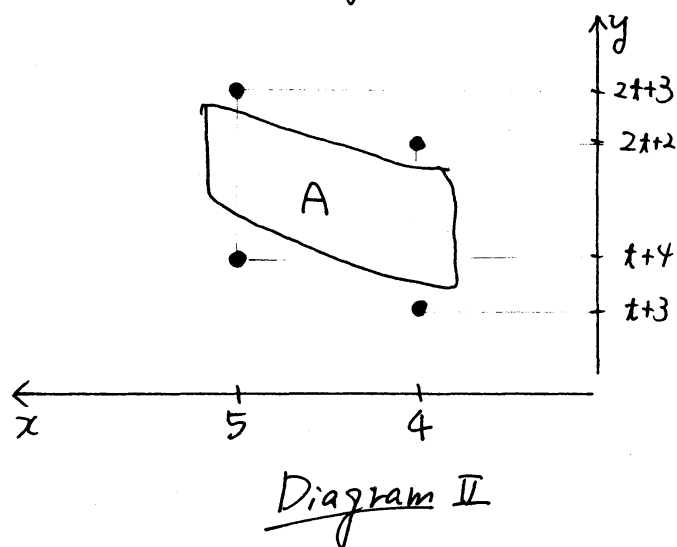


Diagram II の \boxed{A} の部分以外は、 $\beta_p(x, t)_y$ は p によらずに一定の値をとる。

[L] より、 $R/\mathbb{I}_t \otimes \mathbb{Q}$ の $R \otimes \mathbb{Q}$ 上の minimal free resolution で

は、 $\square A$ の部分では $\beta_0(x, t)y = 0$ となっていることがわかる。
 故に、任意の p と、 $\square A$ に含まれる任意の (x, y) に対して、
 $\beta_p(x, t)y = 0$ を示さなければならぬ。

§4. Minimal free resolution の存在 ($t \neq 4$ の場合)

Proposition 9. $t=2$ のときとする。このとき R/I_t の minimal free resolution は存在する。

証明. $t=2$ とすると、 $t+3=5$, $2t+2=6$ となることより、
 $A = \emptyset$ となる。故にこのときは、minimal free resolution は存在する。

$t=3$ のときは、Diagram II は、次のようになっている。

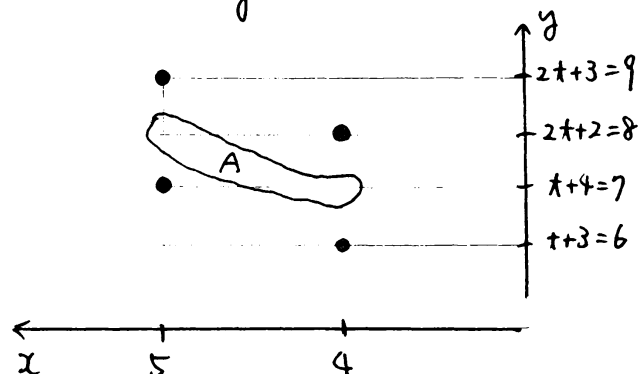


Diagram II

つまり、 A は、 $(4, 7), (5, 8)$ の 2 点から成る集合である。

minimal free resolution $F(p, 3)$ の 7 次の部分を見る。 $F(0, 3)$ の 7 次の部分と比較すると $\beta_p(4, 3)_7 = 0$ がわかる。($(F(p, 3))_7$ と $(F(0, 3))_7$ とは、 4 番目の module を除き、 ベクトル空間の次元は等しい。このことから、 $\dim_{\mathbb{F}}(F(p, 3)_4)_7 = \dim_{\mathbb{F}}(F(0, 3)_4)_7$ となり、 $\beta_p(4, 3)_7 = 0$ がわかる。)

dual をとってやれば、 $\beta_p(5, 3)_8 = 0$ もわかる。 minimal free resolution は、 $t=3$ の場合も存在する。 Q. E. D.

次に $t \geq 5$ の場合を考える。

Proposition 10. 任意の p と $t \geq 5$ に対して、

$$\beta_p(4, t)_k = 0 \quad \text{for } t+4 \leq k \leq 2t.$$

証明、 省略する。(ほぼ、 定理 4 と同様な手法でできる。)

上の命題より、

$$\beta_p(5, t)_k = 0 \quad \text{for } t+6 \leq k \leq 2t+2.$$

となることがわかる。あとわかからないのは $\beta_p(4, t)_{2t+1}$ と、

$\beta_p(5, t)_{t+5}$ である。どちらかが 0 であることが示されれば、

両方 0 であることがわかる。

Theorem 11. $t \neq 4$ ならば. R/I_t の minimal free resolution は存在する。

証明. あと $t \geq 5$ のとき $\beta_p(5, t)_{t+5} = 0$ を示せばよい。
 $t \geq 5$ より, $t+4 \leq t+5 \leq 2t$ となり, 命題 10 より $\beta_p(4, t)_{t+5} = 0$ となることがわかる。このことより, 命題 9 の $t=3$ の場合のように, minimal free resolution の $t+5$ 次の部分を取り出して, \mathbb{Q} 上のものと比較すれば, $\beta_p(5, t)_{t+5} = 0$ となることがわかる。
 Q. E. D.

§ 5. Minimal free resolution の存在 ($t=4$ の場合)

あと $t=4$ の場合に minimal free resolution の存在を示さなければならぬ。 $\beta_p(i, 4)$ は, i が 4, 5 以外では標数 p によらないことを示した。 $\beta_p(4, 4) = \beta_p(5, 4)$ より, あと $\beta_p(4, 4)$ が p によらないことを示せばよい。

ここでは, 証明の概略のみを述べることにする。

$S = \mathbb{Z}[y_{ij}]_{1 \leq i, j \leq 7}$ として, 7 次正方形行列 $Y = (y_{ij})$ の 5 次小行列式全体で生成されるイデアルを J_5 と書くことにす

る。

7×7 行列 (y_{ij}) に、

$$\begin{pmatrix} (x_{ij}) & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$$

を対応させることにより、 $R = \mathbb{Z}[x_{ij}]_{1 \leq i, j \leq 6}$ は、 S -algebra の構造を持つ。このとき、 $J_5 R = I_4$ をみたすことに注意する。

定理 11 より、 S/J_5 は S 上に minimal free resolution をもつことがわかる。これを、

$$\mathbb{P} : 0 \rightarrow P_9 \rightarrow P_8 \rightarrow \cdots \rightarrow P_1 \rightarrow P_0 \rightarrow 0$$

とする。

Lemma 12. $\mathbb{P} \otimes_S R$ は、 R/I_4 の finite free resolution となる。

証明. J_5 は、perfect ideal ($\text{proj. dim } S/J_5 = \text{grade}(J_5)$) であるから、その resolution \mathbb{P} は、depth sensitivity という性質を持つことが知られている。このとき、 $\text{depth}(J_5, R) = \text{grade}(I_4) = 9$ であるから、 $\mathbb{P} \otimes R$ は acyclic であり、

$$H_0(\mathbb{P} \otimes_S R) = S/J_5 \otimes_S R = R/J_5 R = R/I_4$$

となる。このことから、 $\mathbb{P} \otimes_S R$ は、 R/I_4 の finite free resolution

となる。

Q. E. D.

Proposition 13. $\beta_p(4,4)$ は p によらない。

証明. $\beta_p(4,4) = \dim_{\mathbb{F}_p} \text{Tor}_4^{R \otimes \mathbb{F}_p} (R/I_4 \otimes \mathbb{F}_p, R/I_4 \otimes \mathbb{F}_p)$ を計算する
のに、 $R \otimes_{\mathbb{Z}} R$ を使う。細かい計算はここでは省略する。

以上により、次の定理が得られた。

Theorem 14. 任意の i と t に対して、 $\beta_p(i,t)$ は p によらない。すなわち、 R/I_t の R 上の minimal free resolution は存在する。

Remark 15. R に \mathbb{Z} の逆元をつけ加えた環 T とする。
このとき、比較的簡単に T/I_t の T 上の minimal free resolution
を構成することができる。しかし、 R/I_t の R 上の minimal free
resolution を具体的に構成するのは非常に困難である。という
のは、minimal free resolution の中で出てくる次数が t の部分
の boundary map の作り方がむずかしいのである。[A-B-W]₁
による submaximal minor の minimal free resolution において
も次数 t の部分の写像は、自然な写像であるとはいえない。

References

- [A-B-W]₁ K. Akin, D.A. Buchsbaum, J. Weyman, Resolutions of determinantal ideals: the submaximal minors, *Adv. in Math.* 39 (1981), 1-30.
- [A-B-W]₂ Schur functors and Schur complexes, *Adv. in Math.* 44 (1982) 207-278.
- [D-P] C. Deconcini, C. Procesi, A characteristic free approach to invariant theory, *Adv. in Math.* 21 (1976), 330-354.
- [E-N] J.A. Eagon, D.G. Northcott, Ideals defined by matrices and a certain complex associated with them, *Proc. Roy. Soc. London Ser. A* 269 (1962), 188-204.
- [G-N] T.H. Gulliksen, O.G. Negård, Un complexe résolvant pour certains idéaux déterminantiels, *C.R. Acad. Sci. Paris Sér. A* 274 (1972), 16-19.
- [H-E] M. Hochster, J.A. Eagon, Cohen-Macaulay rings, invariant theory, and the generic perfection of determinantal loci, *Amer. J. Math.* 93 (1971), 1020-1058.
- [L] A. Lascoux, Syzygies des variétés déterminantales, *Adv. in Math.* 30 (1978), 202-237.
- [K] K. Kurano, The first syzygies of determinantal ideals, Preprint.

- [R] "Homological invariants of modules over commutative rings", Les Presses de l'Université de Montréal, Montréal 1980.
- [S] T. Svanes, Coherent cohomology of Schubert subschemes of flag schemes and applications, Adv. in Math. 14 (1974), 369-453.